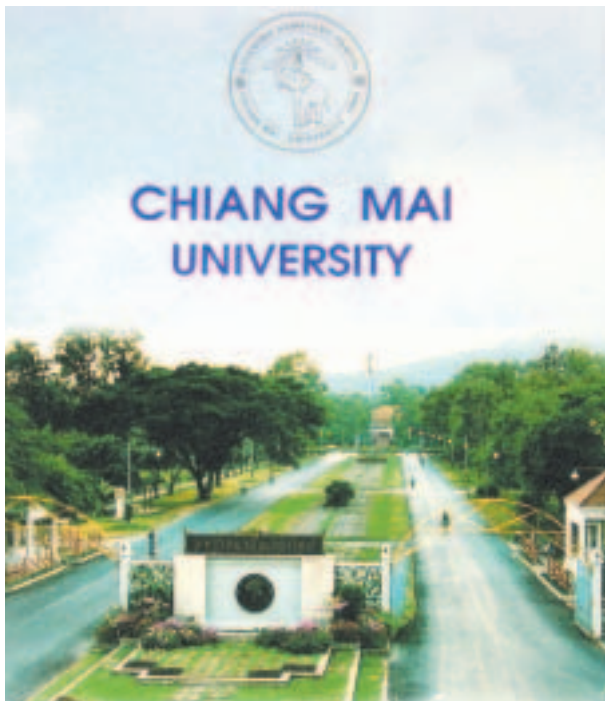


NEWSLETTER



チェンマイ大学正面



吉林大学コンピュータ科学と技術学院



エルフルト大学



大学における国際交流とは？

岐阜大学国際交流委員会委員長（副学長）熊田 雅彌

政府の方針として、日本に受け入れる「留学生の数を10万人に！」という目標は、昨年達成された。それに伴って本学における留学生の数も増加してきており、学術や学生の交流のための大学間及び部局間協定も増加している。教員の国際会議への出席・発表も増え、国際会議を主催する教員もいる。このような状況の中で、県下の企業等を中心に頂いた国際交流奨学寄附金及び教職員・学生による寄付金を基に国際交流事業・留学生への支援等を行っている。

昨年、「国際的な連携及び交流活動」についての自己評価に対する、大学評価・学位授与機構による評価を受けた。その評価結果は、必ずしも高い評価ではないが、全般的に平均点であった。しかし、何かすっきりした満足

感はない。勿論、国際交流は大学の水準なり、これに投与できる財政的な規模が前提であることは言うまでもない。それ以外に、留学生がアジアに偏っているとか、海外に留学する本学の学生数が極めて少ないこともあるが、これらのことは本学に限ったことではない。また、最近留学生の受け入れについても量から質への転換が求められている。だからこそ、これらの問題を含め、本学が独自の基本的な方針を提起すべき時期に来ていると思われる。特に、インターネットの普及は、将来居乍らにして世界中の大学の講義が聞けるようになり、その共通言語は、「英語」になるだろう。講義が全てでないにしても、単位互換を含め、特に留学に関する教育システムは大きく変貌することが予想される。当面本学においても国際交流の前提としての語学教育をどう構築するかが、重要な課題である。

在 外 研 究 報 告

交流協定大学と 研究者の交流 ~ハノイ工科大学(ベトナム)~

地域科学部教授 中村 梧郎



ハノイ工科大学へ行くには、タクシーに乗って「バクコア(工科)」と言うだけでいい。キャンパス名が地域名でもあるからだ。学内の環境科学研究所(INEST)で、ダン・キムチ博士に会った。ドイモイで急成長を遂げつつあるベトナムの産業は、やはり環境汚染を引き起こしている。それにどう取り組むかが研究所の課題であった。

同時にベトナムは、枯葉作戦の後遺症としてのダイオキシン問題を抱えている。そのためINESTはガスクロなどの最新機器を備えていた。管理と操作は、かつて愛媛大学で学んだヴ・ドゥク・タオ講師。血液や土壌の汚染を自力で測れる態勢である。

戦後30年を経たのに元米軍基地など、今も高濃度汚染の現場がベトナムにはある。そのひとつ、ホーチミン市北東のビエンホア基地を今回は調査した。流出汚染水による魚類への蓄積。住民の疾病、子供の先天障害など深刻な問題が存在することも確認された。

9月半ば、ホーチミン滞在中に、ベトナム戦争博物館の館長から「ベトナム政府があなたに情報文化功労賞を

授与することを決めました」との電話があった。訪問中に決定ができたのは偶然。30年にわたる枯葉剤問題の調査と写真報道活動が顕彰理由なのだという。授章式典には同行のゼミ生らも参列、全員がカメラのフラッシュをあびることとなった。

帰国後に、工科大のダン・キムチ博士からも丁寧なお祝いのメールが送られてきた。



▶ ビエンホアの汚染現場



◀ ハノイ工科大INESTで



授章式の様子を伝える全国紙Tuoi Treの記事

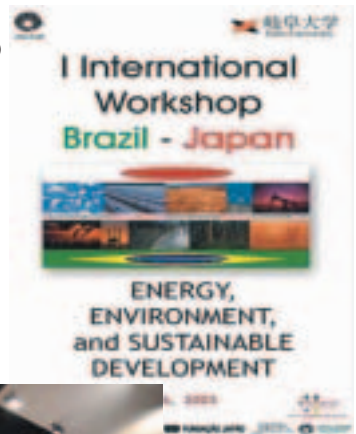
第1回日本ブラジルエネルギー環境 持続的発展に関する国際ワークショップ カンピーナス大学(ブラジル)

工学部教授 守富 寛



第1回日本ブラジルエネルギー環境持続的発展に関する国際ワークショップ(1st International Workshop on Energy, Environment, and Sustainability)が2003年6月16日から3日間行われた。初日午前には両国からの挨拶があり、ブラジルからはサンパウロ州環境局とカンピーナス市郊外開発局から、1次エネルギーの中で水力とバイオマス等の自然エネルギーが大半を占めていること、現在水処理場の建設を始めていること、さらに再生可能エネルギーとしてサトウキビ生産が300百万トン/年になり、輸送用燃料としてエタノールを生産しているとの説明があった。午後の技術会議では、日本側から固体廃棄物処理については食品廃棄物リサイクル法、ダイオキシン規制法、土壌汚染法などに関連した法律と廃棄物排出状況および最近の技術動向や新たな重金属毒性問題、バイオマスニッポンプロジェクトについての紹介、水処理、土壌改質、長良川河口堰の科学的、社会的問題について説明した。ブラジル側からは埋立地の拡大と水処理場の建設予定などの紹介があった。2日目は現地見学であり、建設中の水処理場、公営埋立地とマイクロウェーブによる医療廃棄物処理、民営埋立場と焼却施設(主に医療廃棄物)を回った。3日目は今後の協力および第2回ワークショップについて協議した。会議後はカンピーナス大学のカーロス鈴木先生にお世話いた

き、コーヒー農園とバイオマス(サトウキビ)からのアルコール工場等を視察でき、ブラジルのエネルギー環境についての現況を理解できたことは、有意義であった。



▶ 会議パンフ



◀ 初日のオープニング挨拶風景



▶ 2日目の水処理場見学風景

外国人留学生からのメッセージ

工学研究科 生産開発システム
工学専攻 博士課程2年

アマティア・シャイレンドラ
(ネパール)



ネパールの高校卒業後、インドへ4年間留学し、その直後日本へ留学したため、自分の国にはほとんどいなかった私。日本に来てからもうすぐ5年が経つ。来日したばかりの頃の自分を思い出すと、色々な面でかなり成長して、今の自分があるのではないかと感じている。

日本での留学は初めての日本語の勉強から始まった。専門の勉強の時も日本語での講義中、混乱することが少なくなかった。あるときは講義の最後まで専門的な言葉が英語で出てこなくて、「先生が今日話した、AとBの内容は分かったんだけど、AとBそれ自体は一体なんだったんだっけ・・・」ということもあったのだが、いつの間にか知らないうちに慣れていった。慣れるまでの全てを含めて、自分との戦いでもあったが、周りの先生方と友人達からの助けによって楽に勝ったような気がする。

最近、私にとって岐阜はまるで自分の家のような所に

なりつつある。出張や旅行からの帰りには岐阜に近づくほどほっとしてやることに気づいている。これは、私の趣味である山登りや陶芸と一緒にやれる友達の「手柄」と言わざるを得ない。

一言で言えば、私にとって留学は専門の勉強だけではなく、大勢の人々と会って、様々なことを一緒にやる機会や話し合う機会が与えられ、自分の国のことや自分を育ててくれた人々のことや、もっとも大切な「人間性」を考えるための絶好のチャンスだと言える。生まれ育った環境とは少々違う環境にいるからこそ、多様な経験を味わうことができるのだと思う。



外国人留学生からのメッセージ

教員研修留学生

タンタンエー
(ミャンマー)



私は教員研修生として日本で勉強するために選ばれた時、とても嬉しかったです。なぜかという、日本はいろいろ発展している国だからです。日本に来てびっくりしたことは、日本人の勤勉なこと、子どもでさえ携帯電話を持っていること、美しい自然、時間を守る交通、日本人の親切さなどいろいろありました。日本語のIntensive Aクラス、Bクラスで勉強して、様々な国からの友達ができ、たくさんの知識をもらいました。国では、「あ、い、う、え、お」とローマ字しか勉強せずに、日本に来たのですが、AクラスとBクラスを終了した時、日本語が少し話せるようになりました。それは、先生方のおかげだと感謝しております。日本の他の町で勉強している友達にも、岐阜大学の教え方がとても素晴らしいと言われました。

8月には金沢のJapan Tentに参加するチャンスももらいました。実際、Japan Tentは、素晴らしい活動でした。日本全国で勉強している様々な国からの留学生350人が金沢に集まって、8日間の楽しい生活ができました。日本のいろいろな文化を学ぶことができ、良い体験になりました。刺繍や、太鼓、仏壇、金箔、活花などを見学しました。さよならパーティでは、ホームステイをさせていただいたお父さん、お母さんが涙をこぼしながら、私に挨拶してくれました。私は本当の親と別れるぐらい悲しんで、涙を止めることができませんでした。

私の専門の地理学の先生をはじめ、岐阜大学の先生方は親切にして下さったので、日本で勉強して本当によかったです。また、研究室の皆さんも私の兄弟のように手伝ってくれたので、困ったことはあまりありませんでした。今は専門の勉強と日本語のCクラスで一生懸命勉強しています。たくさんの国から来た留学生と一緒に、日本や世界のことをディスカッションしながら学んでいます。日本に留学してとてもよかったです。と思っています。



留学生体験記

ユタ州立大学に留学

農学部生物資源生産学科4年
高倉 彩乃



ユタ州立大学に来て、7ヶ月が経ちました。こちらの生活にももう慣れ、学生会に入ったりなど、自発的に行動をしています。ユタ州は自然が大変きれいです。今年の夏休みには国立公園に行きました。水平線に向かいまっすぐに走る道路を6時間車で走り続け、かなり疲れきっていましたが、ユタの大自然に触れ、疲れも忘れてしまうほどの壮大さと迫力のある絶景に感動させられたのを覚えています。

今は生物資源、動物科学、英語分野から複数の授業を受講しています。どの授業も大変有意義で、英語はもちろんのこと新しい知識を吸収することを楽しんでいます。また授業の一環で、グループでプロジェクトを進めたり、勉強グループを作り学生同士で勉強し、理解を深め合ったりもしています。

友達も多くできました。授業、寮生活を通してできたアメリカ人やネイティブアメリカン、留学生の友達などさまざまです。アメリカは“人種のサラダボール”と言われるように、さまざまな文化を持った人達がそれぞれの誇りを持ちながら生活をしています。そのような人たちと話し、考え方や価値観を理解・共有することは発見が多いですし、また自分の見解も広げてくれます。

あと残りの滞在もわずかですか、この留学が有意義なものになるように努めていきたいと思います。最後に、本留学にあたってご支援をいただいている皆様方に、この場をかりて御礼申し上げます。



留学生体験記

シドニー工科大学に留学

地域科学部地域環境講座4年
野村 友紀



オーストラリアにあるシドニー工科大学に交換留学生として1年間の短期留学をしました。

シドニーはシドニー港を中心に南北に広がっており、オペラハウスやハーバーブリッジの景色に代表されるように、海の景色がきれいな港街です。都会でありながらも自然がすぐ側にあり、私の住んでいた家もビーチから歩いて5分のところで、とても住むのに気持ちいい環境でした。

大学では、最初の学期にオーストラリアの言語と文化コースに入り、他国の留学生と共に学びました。次の学期では、サイエンス学部で自分の専門分野である地球科学と野生動物生態学の授業を取りました。前期でアカデミックレポートの書き方やリサーチの進め方などを学んだものの、後期で実際に学部に入って授業を受けるのはかなりのチャレンジでした。与えられる課題も多いことなどから、現地の学生は日本の大学生の2倍以上の勉強量をこなします。授業についていくことに精一杯であった私は、1つ1つの課題をこなしていくのに相当苦労しました。しかし、自分が努力すればその分しっかりと評価で認めもらえるので、終わった後とても達成感がありました。また他の学生も私が授業が分からず困っているときなど、快く教えてくれました。講義形式の授業

がほとんどの日本の大学と違って、授業の中で野外調査に行ったり、チュートリアルで発表したりする機会もあり、そんな教育制度の違いに触れるのもよい経験になりました。

週末はよく友達とスポーツをしたり、各国文化を紹介するイベントに参加したりしました。また、長期休暇にはメルボルンやニュージーランドへ旅行に行きました。海外の知らない街に一年間住んだということで、かなりの生活力もついたと思います。また新しい生活環境の中で様々な人々と出会い、違った文化に触れることによって多くのことに影響を受け、刺激されました。シドニーでの一年間は本当にあっという間でしたが、密度の濃い、本当に充実した一年となりました。



短期留学推進制度（派遣）の留学情報

この制度は、大学間交流協定に基づき、外国の大学との間で相互に学生を交換する場合に、下記の「資格及び条件」を満たしている者を、日本国際教育協会に奨学金候補者として推薦する制度です。

渡航時期は、4月1日から翌年の3月15日までの間に渡航できる者です。

「資格及び条件」

派遣する期間は、3か月以上1年以内

短期留学生派遣計画に基づき、派遣先大学が受入れを許可する者

学業成績が優秀で、人物等に優れ、学部長又は研究科長が推薦する者

派遣先大学での専攻は問わないが、留学の目的及び計画が明確で海外への留学により、効果が期待できる者

経済的理由により、自費のみでの留学が困難な者

留学期間終了後、本学に戻り学業を継続する者または本学の学位を取得する者

英語圏の留学は、TOEFL - CBTスコアレコード173点が目安です。

なお、日本国際教育協会の奨学生として不採択になった場合でも自費(私費)により留学することができ、派遣先大学での授業料等の免除と一定数の単位互換が認められます。

申請手続きについては、毎年9月中旬を目途に各学部(研究科)に通知します。申請した結果については、日本国際教育協会から、1月下旬に決定通知があります。

派遣先大学等は、P6の表又は「学生便覧」を参照してください。

短期留学の奨学金情報

本学には、学術交流協定を締結している外国の大学へ短期留学を希望する学生(外国人留学生を除く。)に対して、選考の上奨学金を支給する制度があります。

この制度は、外国の大学へ短期留学する者の経済的支援を行い、外国留学を促すことにより、学生の国際交流意識を高め、国際感覚を備えた人材の養成を目的に制定されたもので、概略は次のとおりです。

「資格」

次の要件をすべて満たす者

学業成績が優秀で、人格等が優れている者

留学先の大学において、教育を受けるに十分な外国語の能力を有する者

帰国後も引き続き本学において学業を継続する意志を有する者

他の機関から留学のための奨学金を受給していない者

「奨学金」

月額5万円又は4万円を1年以内

「1年に採用する奨学生」

2人以内

なお、この制度による奨学生の募集は、毎年9月に日本国際教育協会の奨学生募集と同時にを行います。

研究者交流助成事業（大学院学生の海外派遣）

岐阜大学国際交流委員会による学術交流協定大学との研究者交流（派遣・招へい）助成事業について、平成14年度から、大学院学生の派遣も助成の対象となりました。詳しくは岐阜大学ホームページでもご覧いただけます。

学術交流協定大学との研究者交流（派遣・招へい）助成要項 - 抜粋 -

（対象者）

第二 助成の対象となる者は、本学の専任教員で、学術交流協定大学との教育・研究活動について次の各号に掲げる具体的な計画のあるものとする。

- 一 講義
- 二 講演
- 三 共同研究等

2 前項に規定するもののほか、本学の大学院学生で、学術交流協定大学で行う共同研究等のため、派遣されるものも、助成の対象とする。

（派遣・招へい人員）

第三 派遣・招へい人員は、各年若干人とする。

（派遣・招へい経費）

第四 助成金は、本学国際交流促進のための奨学寄附金の一部を充て、旅費及び滞在費を支給する。この場合、航空運賃は最下級運賃とし、旅費及び滞在費の支給額に限度を設けることがある。

学術交流協定締結

(平成15.12.1現在)

大学間協定(26大学)

大 学 名	国 名	協定締結日	大 学 名	国 名	協定締結日
カンピーナス大学	ブラジル	1984. 8.27	ユタ州立大学	米 国	1997. 5.29
サンディエゴ州立大学	米 国	1985. 5. 7	ハノイ工科大学	ベトナム	1998. 6.26
浙江大 学	中 国	1986. 4.21	ウェストバージニア大学	米 国	1998.12.16
広西大 学	中 国	1986. 4.24	カセサート大学	タ イ	1999. 8. 5
電子科 技大 学	中 国	1986. 7.21	アバテイダンディ大学	連 合 王 国	2000. 6.28
江 南 大 学	中 国	1986. 9. 3	内 蒙 古 農 業 大 学	中 国	2000. 8. 8
中 国 医 科 大 学	中 国	1987. 8.15	シドニー工科大学	オーストラリア	2000. 8.14
ル ン ド 大 学	スウェーデン	1987. 9.12	ヴェスプレーム大学	ハンガリー	2001. 3. 2
ノーザンケンタッキー大学	米 国	1990.10. 1	アンダラス大学	インドネシア	2001. 4.23
ソウル産 業大 学	韓 国	1992. 3.19	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001. 8.23
サント・トマス大学	フィリピン	1994. 6.14	エルフルト大 学	ド イ ツ	2002.12. 4
グリフィス大 学	オーストラリア	1995. 3. 3	吉 林 大 学	中 国	2003. 5.20
ユタ大 学	米 国	1997. 5.28	チェンマイ大 学	タ イ	2003. 8. 4

部局間協定(8機関)

大 学 ・ 学 部 等 名	国 名	協定締結日	協定部 局	大 学 ・ 学 部 等 名	国 名	協定締結日	協定部 局
チュラロンコン大 学 理 学 部	タ イ	1994. 3. 5	農学部	浙江大 学 院	中 国	2000.12. 4	医学部
慶北大 学 校 農 科 大 学	韓 国	1998.12.21	農学部	コンケン大 学 医 学 部	タ イ	2000.12.18	医学部
コンケン大 学 農 学 部	タ イ	2000. 3.27	農学部	国立全南大 学 校 工 科 大 学	韓 国	2001. 2. 6	工学部
コンケン大 学 学 部 間 共 同 開 発 研 究 所	タ イ	2000. 3.27	農学部	韓国農村振興省 国立農業科学・技術院	韓 国	2003. 3.17	農学部

印は、授業料等相互不徴収の大学を示す。

国際交流状況について

1. 岐阜大学外国人研究者受入数

(H15.12.1現在)

区 分	学 部 等	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
私 費		0	0	1	4	4(3)	0	9(3)
委任経理金・その他		0	0	5(4)	10(1)	2	0	17(5)
合 計		0	0	6(4)	14(1)	6(3)	0	26(8)

1か月以上本学に滞在し、岐阜大学外国人研究者受入れ規則に基づき、受入れを承認された外国人研究者をいう。()内は、女子を内数で示す。

2. 岐阜大学外国人研究者などの訪問数(1か月未満)(平成14年度)

区 分	学 部 等	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
合 計		22	1	64	40	14	22	163

1. 以外で、本学に短期間滞在した外国人研究者等をいう。

3. 岐阜大学教職員海外渡航者数(平成14年度)

区 分	学 部 等	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
出 張		55	11	85	180	43	36	410
研 修		9	8	66	17	12	3	115
合 計		64	19	151	197	55	39	525

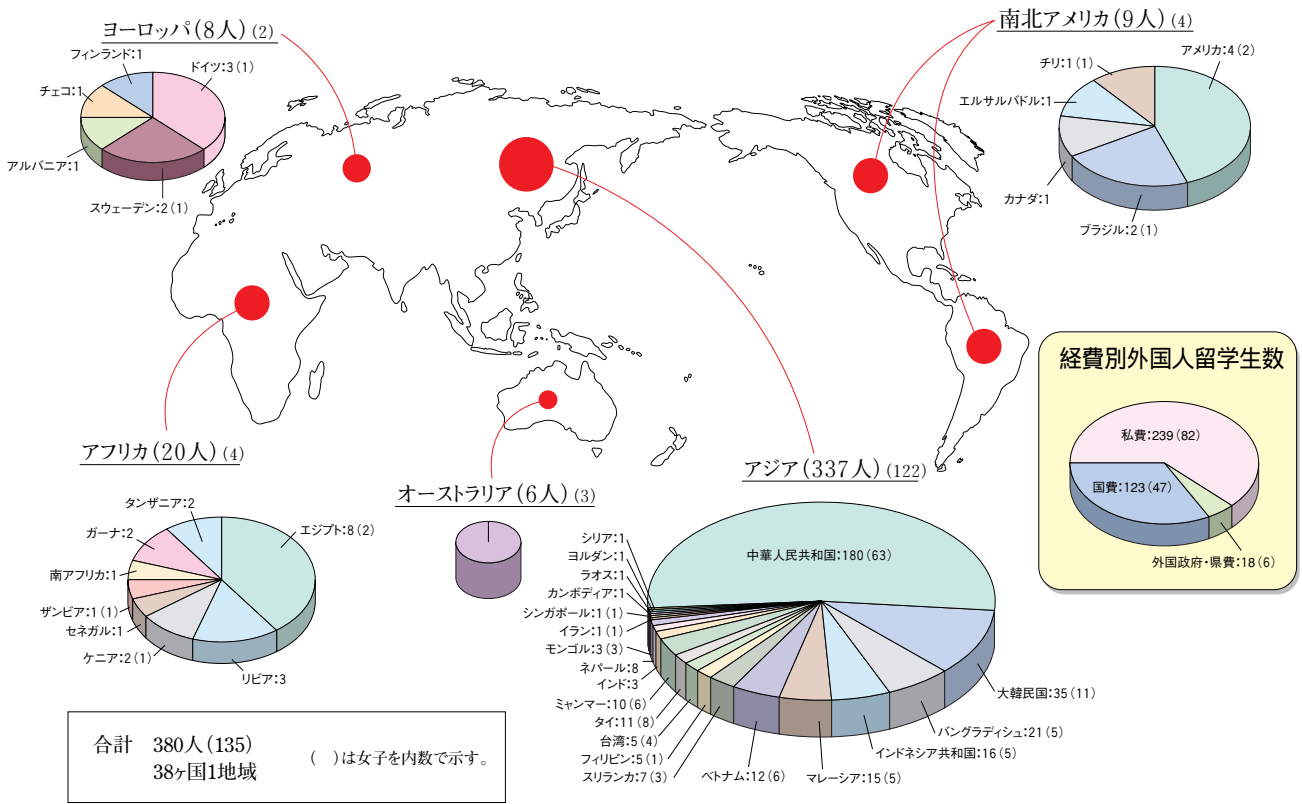
(私事・休職渡航を除く。)

4. 岐阜大学学生の留学者数(平成14年度)

区 分	学 部 等	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
短期留学推進制度		2	1	0	0	0	0	3
大学間交流協定		1	1	0	2	0	0	4
サマースクール		7	5	1	3	5	0	21
休学による留学 (語学研修等含む)		3	8	0	10	3	0	24
合 計		13	15	1	15	8	0	52

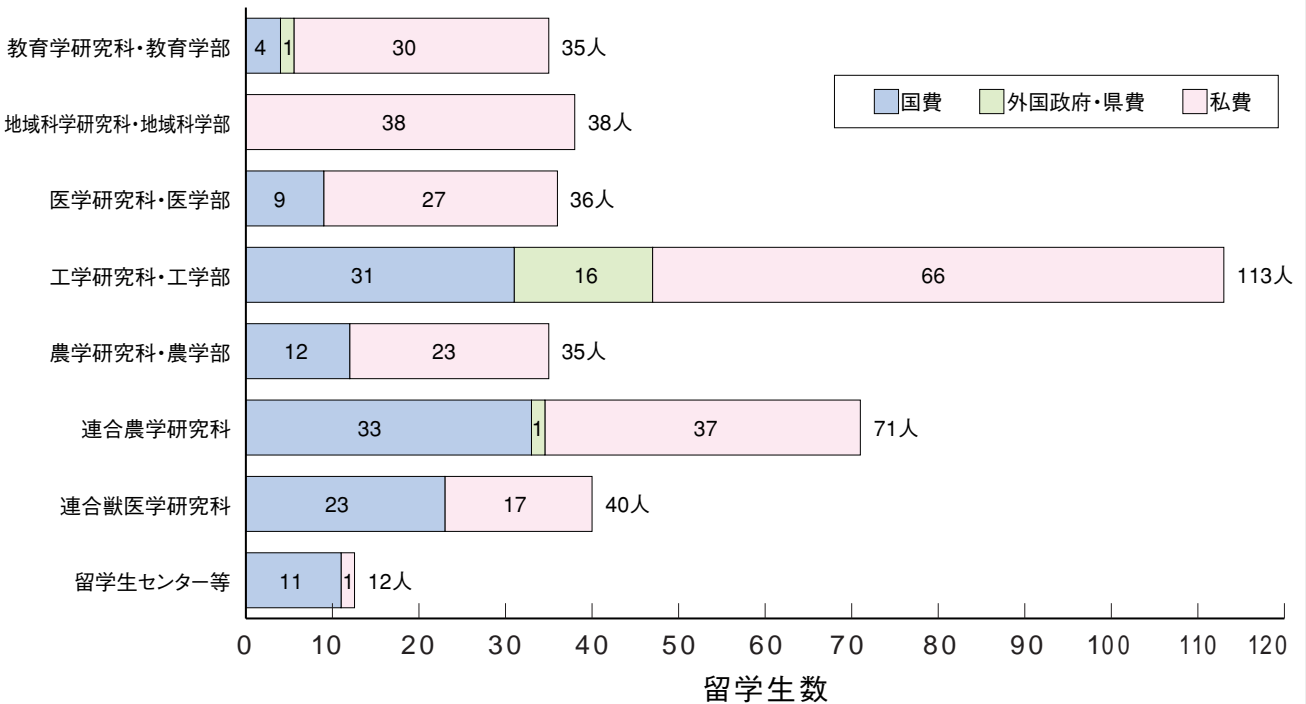
岐阜大学国別外国人留学生数

(2003年11月1日現在)



学部等別・経費別留学生数

(大学院研究科・学部等名)



国際交流奨学寄附金協力団体等一覧 (平成15年12月現在)

イビデン株式会社	岐阜プラスチック工業株式会社
医療法人東山会長良川病院	クロレラ岐阜販売株式会社
株式会社市川工務店	コーテック株式会社
株式会社エヌテック	国際ソロプチミスト岐阜
株式会社大垣共立銀行	財団法人井上国際交流基金
株式会社KVK	財団法人田口福寿会
株式会社後藤孵卵場	サンメッセ株式会社
株式会社ジムブレイン	昭和コンクリート工業株式会社
株式会社十六銀行	大日コンサルタント株式会社
株式会社スギヤマメカレトロ	大日本土木株式会社
株式会社太陽建設コンサルタント	太平洋工業株式会社
株式会社ノーベル	中部電力株式会社岐阜支店
株式会社文溪堂	東海旅客鉄道株式会社
河合石灰工業株式会社	日本耐酸壇工業株式会社
岐阜瓦斯株式会社	ハートランス株式会社
岐阜県信用農業協同組合連合会	パイオニア貿易株式会社
岐阜県農業協同組合中央会	長谷虎紡績株式会社
岐阜車体工業株式会社	矢橋工業株式会社
岐阜信用金庫	有限会社東海蜂蜜
岐阜精機工業株式会社	ユニオンテック株式会社
岐阜乗合自動車株式会社	

これまで上記の企業団体から、奨学寄附金のご協力をいただきました。誌上を借りて、厚くお礼申し上げます。

(50音順、敬称略)

編集後記

岐阜大学国際交流委員会発行のニューズレター29号をお届けします。本誌は岐阜大学ホームページにも公開されております。

本誌の目的は、岐阜大学における国際交流を学内外に皆様に知っていただき、今後もその活動の活性化を期することです。今年度は、吉林大学(中華人民共和国)およびチェンマイ大学(タイ王国)の2大学と締結しました。参考までに協定大学一覧は、ホームページにてご覧下さい。

さて、政府の留学生10万人計画は達成され、多くの留学生が日本にきています。これらの留学生が日本で良い体験をし、次につながらなければ余り意味がありません。岐阜大学では余り問題とはなっていませんが、一部の留学生では大学に出席しないでアルバイトに精を出したり犯罪行為に走ったりすることは報道されています。岐阜大に留学する学生からこのような人を出さないようにケアをする体制が必要と思われる。次に数より質を問われてきています。質を高めるには留学生にアルバイトをしないで勉学に勤しめるような環境作りが必要であり、国際交流委員会も努力していますが、今の日本の経済状態を考えると限界があります。

岐阜大への留学生は年々増加していますが、岐阜大から海外に留学する学生数は留学生の約10分の1です。協定を結ばれている大学は多いですが、これらの協定を活用されているのは、一部の地域に限られています。岐阜大学の学生が留学を支援するシステムはありますが、これらのシステムをより充実する必要があると思われます。

最後に、岐阜大学構成員の国際交流への積極的な参加と学外の皆様のご支援をお願い申し上げます。

(深田恒夫)

編集者：国際交流委員会：杉野直樹(地域科学部)、深田恒夫(連合大学院)
留学生交流専門委員会：仲澤和馬(教育学部)、太田孝子(留学生センター)
事務局：山本宏(総務課)、黒田広子(総務課)
竹原克郎(留学生課)、三輪良博(留学生課)

総務課国際交流室(Tel: 058-293-2011、Fax: 058-293-3209、
E-mail: kokusais@cc.gifu-u.ac.jp、ホームページ: <http://www.gifu-u.ac.jp/>)